

4章 緑地等の配置計画

4 1 帯広市における緑のネットワーク

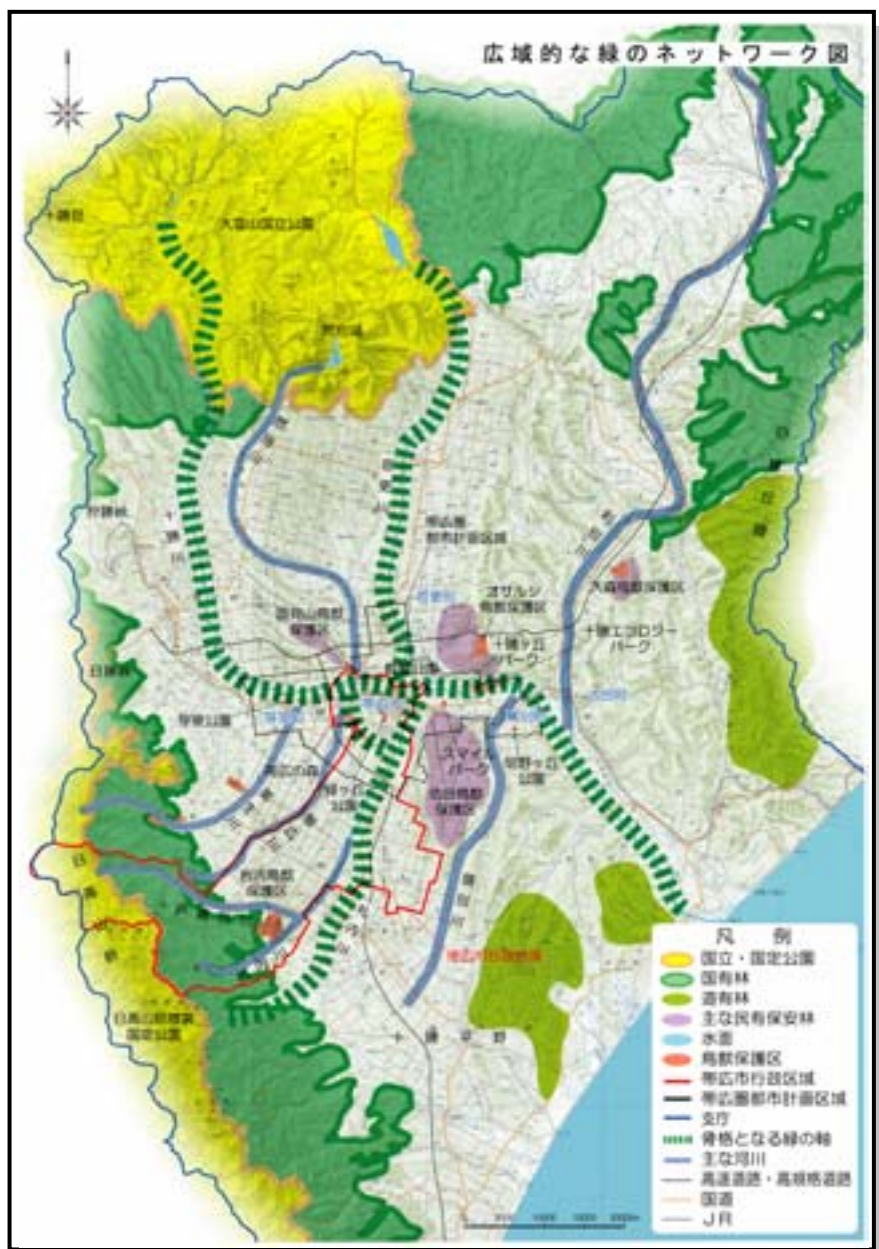
緑の将来像を実現するにあたっては、計画的かつ効率的な緑づくりを総合的に実施していく必要があります。そのためには、まちづくりの中で果たす緑の役割を、効果的・効率的に発揮できるよう緑のネットワークを形成していきます。

緑のネットワークについては、広域的な視点から都市部へと段階的に考えていきます。また、緑づくりの基本となる環境保全・レクリエーション・防災・景観の4系統から配置していきます。

(1) 広域的な緑のネットワーク

十勝の北部には大雪山国立公園、南西部には日高山脈襟裳国定公園などの自然を源とした、十勝川・札内川・音更川・利別川など多くの河川の貫流により、十勝平野が形成され、中央に帯広市の都市部が位置しています。

このように、十勝の緑をみると山間部の豊かな自然、大きな清流、のどかな農村風景などにより広域的な緑のネットワークが形成されており、今後も適正に保全していく必要があります。



(2) 市域のネットワーク

帯広市は日高山脈の山間地域や、畑作を中心とした農業地域、そして都市部の3つの地域に区分されます。

山間地域は、日高襟裳国定公園をかかえ豊かな大自然を保っています。農村地域では農業機械の大型化等により、畑地の統合や新たな農地開発がすすみ、自然環境豊かな樹林地が減少しているものの、基幹防風林や耕地防風林、屋敷林などの樹林地の他、中小河川沿いの河畔林が残されており、十勝らしい田園の風景が形成されています。

都市部の緑づくりをすすめる上では、こうした自然環境や広い範囲の緑との連続性や関連性を保つことで、さまざまな緑や動植物との関わりが生まれ、人と自然が共生する都市環境がつくられ持続されていきます。

こうしたことから、市域及びその周辺を含めた広範囲のネットワークを形成し、都市部のネットワークとの連続性をはかっていきます。

なお、山間地域や農村地域については、緑の基本計画の対象区域となっておりますが、関係する官公署や関係機関と連携しながら、ネットワークの形成や緑の保全につとめることが必要となります。



(3) 緑のネットワーク形成

緑のネットワーク化により、良好な都市環境や動植物の生息・生育環境が形成され、自然と共生した潤いのある快適な街並みが創出されます。

ここでは、第五期総合計画のまちづくり目標を具現化していくために、本計画の将来像や基本方針を受け、緑地等の機能別 4 系統や緑の持つさまざまな機能を総合的に捉えながら、緑づくりの基本となる緑のネットワークの配置方針を明確にしていきます。

【ネットワークの配置方針】

骨格となるネットワークの配置

水系軸

日高や大雪から連なり豊富な水と豊かな自然環境を有する十勝川・札内川は、山間部から都市部への回廊となり、緑の骨格として配置します。

外環軸

帯広の森を核に、南には畜産大学、農業高校、機関庫の川の豊かな緑を中心として札内川へ配置します。

北には、帯広川、新帯広川、十勝川を経て国見山へ、もう一方では、つつじヶ丘霊園、高規格道路の緑地を経て、十勝川への緑を配置します。

都市貫軸

水系軸や外環軸と市街地をつなぐ 3 本の都市貫軸を配置します。

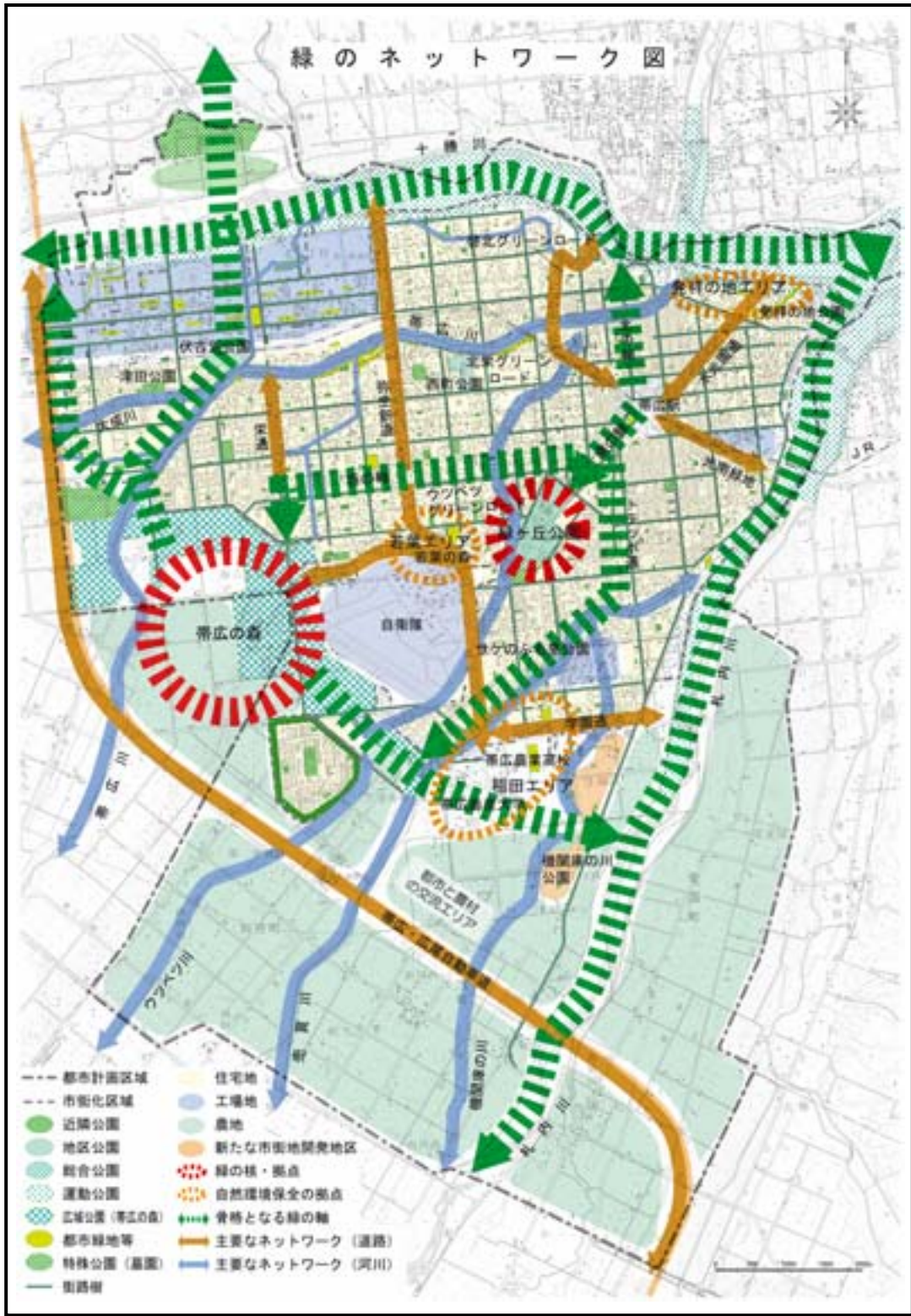
北の軸：中心市街地から北に、中央公園を拠点として、西 2 条通の賑わい軸や西 3 条通、緑豊かな西 4 条通などを活用し、十勝川につなぐ緑を配置します。

南の軸：中心市街地から南には、緑ヶ丘公園を中継拠点として、公園大通、とてっぽ通、売買川を経て帯広の森につなぐ緑を配置します。

西の軸：緑ヶ丘公園を拠点とし、ウツベツグリーンロードを経て、帯広の森につなぐ緑を配置します。

さまざまなネットワークの配置

効率的・効果的な緑づくりをすすめ、持続性のある緑を形成するため、水系軸、外環軸、都市貫軸をつなぐ公園緑地、街路樹、水辺などのさまざまな機能を生かしたネットワークを配置します。



4 2 系統別の配置計画

計画の基本方針や緑地の保全、緑化の目標を踏まえながら、緑づくりの基本となる環境保全、レクリエーション、防災、景観形成の4系統の配置方針を計画します。

(1) 環境保全系統の配置方針

【配置方針】

環境保全系の骨格

良好な都市環境の形成や動植物の生息・生育環境の創出・保全の骨格として、帯広の森及び十勝川水系緑地を配置します。

環境保全系の拠点

都市における動植物の生息・生育環境の創出・保全のため、緑ヶ丘公園、帯広神社や水光園などの発祥の地エリア、大山緑地や若葉の森などの若葉エリア、帯広農業高校や稲田小西側カシワ林、売買川周辺などの稲田エリアを環境保全の拠点として配置します。

系統的なネットワーク

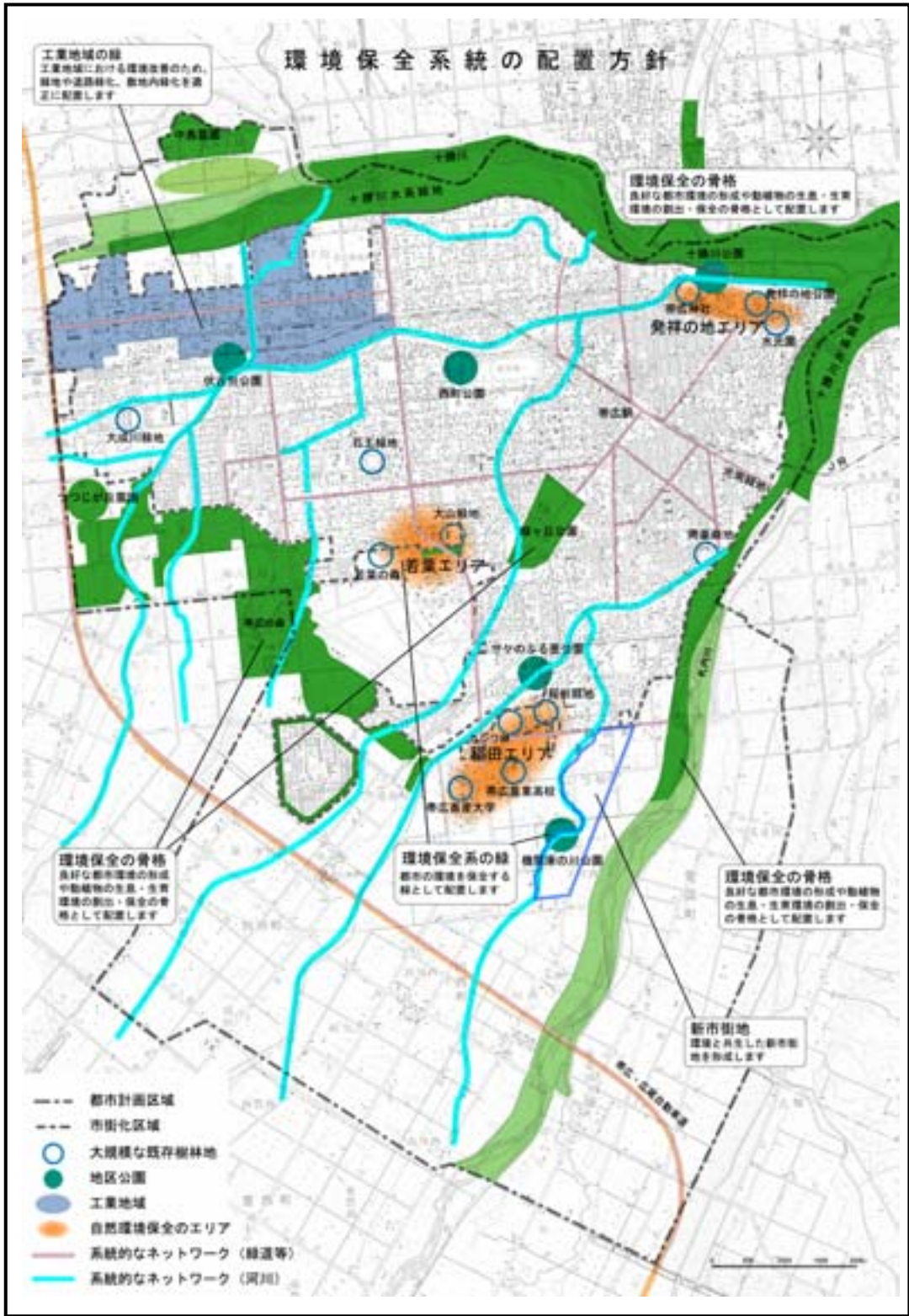
帯広の森や十勝川水系緑地の骨格と拠点となるエリアとのつながりや、都市内に点在する樹林地などをつなぐ回廊として、河川、緑道などを配置します。

地域に応じた緑の配置

商業地、住宅地、工業地など地域の環境を改善するため、土地利用に応じた緑の配置をします。

環境保全系の新たな緑

中島地区において、緑豊かな環境と循環型社会形成のモデル地域として配置します。



(2) レクリエーション系統の配置方針

都市化の進展や少子高齢化、余暇時間の増大などから、自然とのふれあい、健康増進、コミュニティ形成など様々なニーズに対応して、市民の日常的に利用できるレクリエーション活動の場として配置します。

【配置方針】

広域的なレクリエーションの場

地域のスポーツ振興や自然とのふれあい、環境学習、市民みんなで行う緑づくりの場などいろいろな機能を備え、広域的な利用を考慮している帯広の森を広域レクリエーションの場として配置します。

多様なレクリエーションの場

軽スポーツや野外レクリエーション、憩いの場など、市民が日常的に健康・運動の場として利用するため、緑ヶ丘公園や水辺の空間となる十勝川水系緑地を配置します。

身近な活動の場

市民の最も身近にあり、気軽に自由に利用できる場として、各地域に地区公園や近隣公園、街区公園を配置します。

散策ネットワークの形成

緑道や河川堤防を活用し、都市内に配置されているレクリエーションの場を効果的に利用し、安全で快適に、楽しみながら歩いていける緑の歩行空間を配置します。



(3) 防災システムの配置方針

地震・火災などの災害時に避難地や避難路、火災延焼防止、洪水の調整、建物等の倒壊防止などさまざまな効果があり、都市の安全性・防災性を高めるため適正な配置をすすめます。

【配置方針】

広域避難地

地域防災計画との整合をはかり、緑ヶ丘公園を広域避難地として配置し、避難地の他、物資の集配や救援活動、ボランティア活動などの広域的な拠点とします。

一次避難地

地域防災計画の配置計画との整合をはかり、災害時の緊急・一次的な避難場所として、また、地域の様々な防災活動の拠点として、十勝川公園、西町公園、中央公園、大通公園、あずさ公園、柏林台公園、白樺公園、グリーンパークの8箇所を配置します。

身近な避難場所

市内には広域避難地や一次避難地の他、多くの公園緑地があります。これらの公園は、地域に最も身近であることから、周辺の市民が一次的に避難したり、自主的な防災活動が可能な場として配置します。

延焼防止の効果

広幅員を有する十勝川・札内川を始めとして、都市内の帯広川・ウツベツ川・売買川などの河川や道路を、延焼防止の機能として配置します。

避難経路の確保

河川や道路は延焼防止の他、避難路としての役割があります。広域避難地や一次避難地さらには地域の公園緑地・各施設などを安全に移動できるよう適正に配置します。

不燃化の促進

避難地や避難路の安全性をはかるため、街路樹や並木の形成とともに、耐火性、防火性に優れた樹種による緑化をすすめます。

(4) 景観系統の配置方針

緑は、地域の気候・風土に応じた特色のある植生や四季の変化をもち、また、地域の歴史や文化とのかかわりがあります。このような緑を適正に保全し、また帯広らしい新たな緑の創出により、個性と魅力ある都市の景観を形成していきます。

【配置方針】

広大な都市景観

十勝川及び札内川は日高や大雪を源流とし荒々しい流れとのどかな流れを備え、広大な河川空間と自然環境を形成し、十勝らしい河川の景観を創出しており、景観形成の軸として配置します。

また、市民の手による大規模な森の形成をすすめる帯広の森は、自然環境の保全と新たな緑づくりがすすめられており、次世代に引継ぐ都市景観形成の核として配置します。

郷土の景観形成

帯広神社や水光園などの発祥の地エリア、大山緑地や若葉の森などの若葉エリア、帯広農業高校や稲田小西側カシワ林、売買川周辺などの稲田エリアを郷土景観の拠点として配置します。

身近な景観

点在する石王緑地や南豪緑地などの自然豊かな緑地の他、街区公園や近隣公園など身近な緑について、まちの景観に配慮した適正な保全と新たな緑づくりの場として配置します。

景観の連続性

帯広川などの都市内の中小河川は、水辺や河川並木などで潤いのある河川景観の創出をはかります。道路では街路樹や植樹帯での花づくりなどで、帯広らしい特色のある美しい街並み景観の創出をはかります。

中心部の景観形成

帯広駅を中心として、特色のある樹木や花など様々な緑を創出し、市民や来訪者など行き交う人々に潤いと安らぎを与え、帯広を象徴するような景観の形成をはかります。

(5) 総合的な配置の方針

緑のネットワークや 4 つの系統による配置方針に基づき、緑の総合的な配置をします。

【配置方針】

緑の核となる帯広の森

市民参加で森づくりがすすめられている帯広の森は、広域的なレクリエーションの場所であると同時に、豊かな自然環境の創出をはかり、動植物の生息生育環境を保全し、人が自然とふれあう場など緑づくりの核として配置します。

骨格となる十勝川・札内川

十勝川・札内川は、大雪や日高の山間部から都市部への回廊となり、豊かな水辺や河畔林が形成され、良好な都市の環境をつくる上では重要な役割があります。同時に、さまざまな軽スポーツ・レクリエーションの場となるもので、緑の骨格として配置します。

身近な緑の場

市民の身近なレクリエーションの場、地域活動の場、緑づくりの場となっている地区公園、近隣公園、街区公園を身近な緑の場として配置します。

緑の拠点地区の保全

都市内の良好な自然環境が形成され保全されている大山緑地、石王緑地、稲田緑地などの都市計画緑地のほか、帯広神社や水光園、帯広農業高校、稲田小学校西側カシワ林などの指定樹林地を緑の拠点地区として保全します。

緑をつなぐ

帯広の森、十勝川・札内川および身近な緑の場となる公園を街路樹や水辺などのさまざまな機能を生かしたつながりで、持続性のある緑豊かな都市環境を形成します。

